



(株)富士紙業

ISO14001へのチャレンジ

無理のない取り組みを目指して

会社概要

◆本社
◆宮沢事務所
(リサイクル推進部)

横浜市泉区上飯田町4746番地
横浜市瀬谷区宮沢3-24-6

◆代表者

宗村隆寛

◆事業規模

◆従業員 40名

保有車両
主要設備

4tパッカー車	21台	他 6台
大型プレス機	2機	ショベルローダー
フォークリフト	5台	40tトラックスケール
年間古紙取扱量	48000t (月間平均 4000t)	

◆事業内容

古紙の受け入れと回収
製紙原料の販売
一般廃棄物の収集・運搬
トイレットペーパー等の再生品の販売

◆資格等

廃棄物再生事業者登録
産業廃棄物収集運搬業
一般廃棄物収集運搬業
ISO14001認証



古紙の流通と古紙問屋の役割

古紙の発生

- ・ 企業（コピー用紙・段ボール）
- ・ 家庭（新聞・雑誌・紙パック）
- ・ 行政（入札による買受）

古紙問屋にて製紙原料にする

- ・ 異物を除去し種類別に仕分け
- ・ 圧縮梱包（約1トンの直方体）
- ・ 製紙原料として出荷

古紙リサイクルの輪

製品の製造

- ・ 段ボール箱製造
- ・ 紙器製造業
- ・ 新聞社
- ・ 印刷業、製本業

製紙メーカーで原紙を製造

- ・ 製品の前段階の原紙を製造
- ・ 原紙の販売



重さ1t

高さ1.1m

長さ1.8m

幅1m

なぜ今まで取り組まなかったのか

ISO14001のイメージ

- ・環境保全に貢献している企業
- ・入札や営業面で有利ではないか

強

現実的には

- ・日常業務との両立が難しい・・・
- ・あらたに担当者・担当部署を配置しなければならないのは・・・



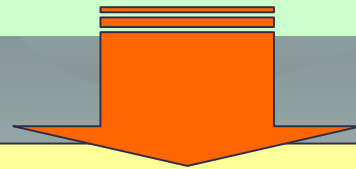
迫られる企業への環境対策

◆ 世界的には・・・

- ❖ 1997年に議決された京都議定書により日本は6%の温室効果ガス削減を義務付けられた。

◆ 身近なところでは・・・

- ❖ 横浜G30プランによるゴミの減量化計画が昨年4月からスタートした。



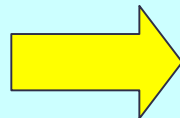
**ISO14001認証
取得を決断**

どうすれば取り組みやすいか？

日常業務を基本とした**無理のない**取り組みにする

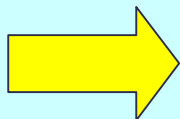
日常業務

営業部



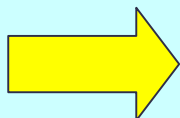
**新規開拓
顧客管理**

**リサイクル
推進部**



**古紙回収・回収業務管理
車両保守・安全管理**

**リサイクル
事業部**



**古紙分別・製品化
品質管理・在庫調整**

日常業務をISOの視点から見ると

日常業務

営業部

新規開拓
顧客管理

リサイクル
推進部

古紙回収
回収業務管理
車両保守
安全管理

リサイクル
事業部

古紙分別
製品化、出荷
品質管理
在庫調整

ISOの視点

・取扱量を増やすことで
ゴミの資源化及び減量化

・回収効率の向上による
車両燃料の有効利用
・安全管理強化による
労災事故の防止

・分別の重要性を広める
ことによる地域の環境保
全に対する意識の向上

富士紙業ISO14001の取り組み

①取扱量を増やす

②軽油の使用量を削減する

③分別説明会や見学会を増やし、環境対策への意識向上を促進させる

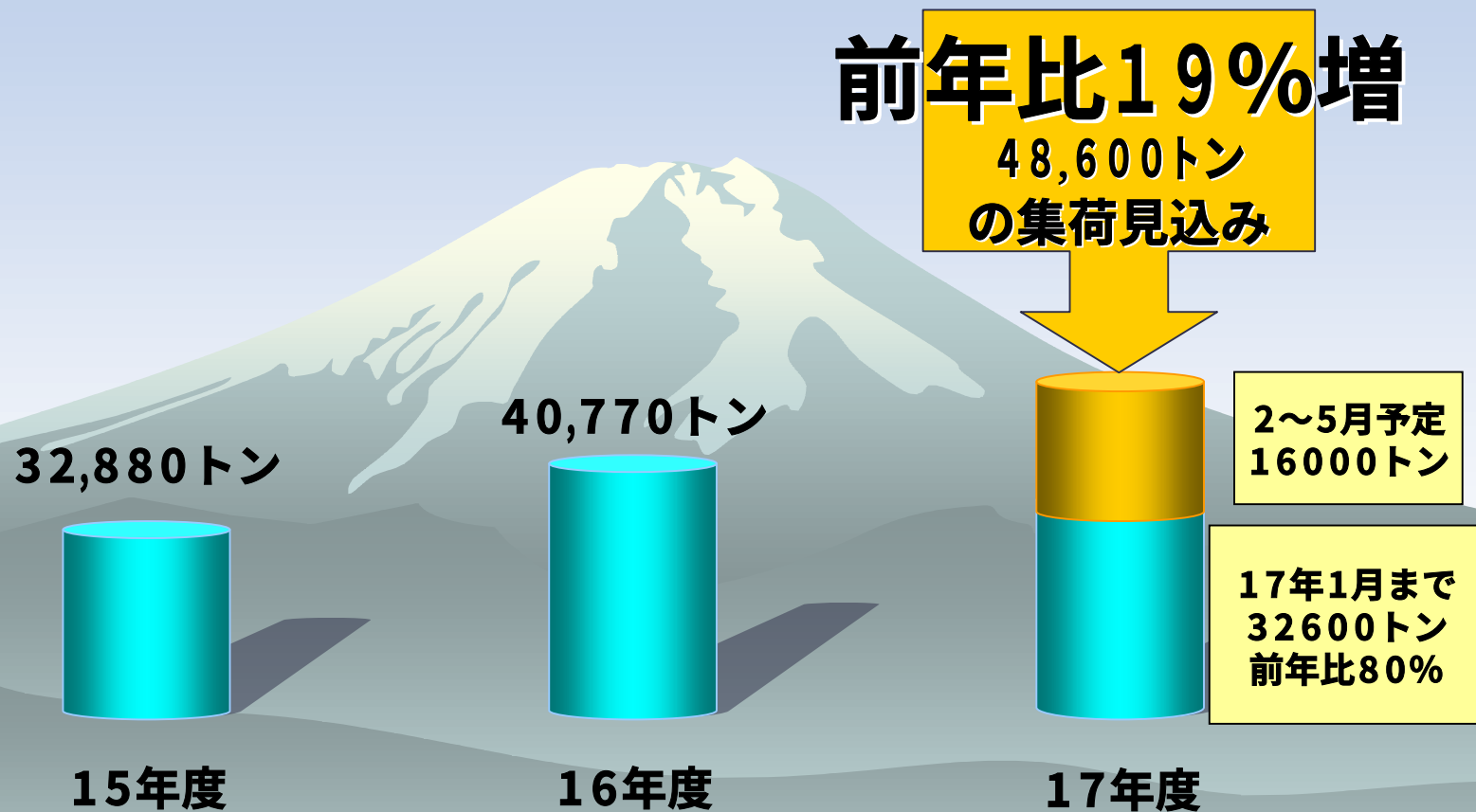
④労災無事故500日運動の達成と継続

①取扱量を増やす

**17年度の目標
「前年比7.5%の増加」**

- **地域団体の会議に参加し協力を呼びかける**
- **営業力強化による新規顧客の獲得**
- **ヤード拡張・ベアラー増設・選別機導入**
- **産廃・一般廃棄物業者とのタイアップ**

年度別取扱量の推移



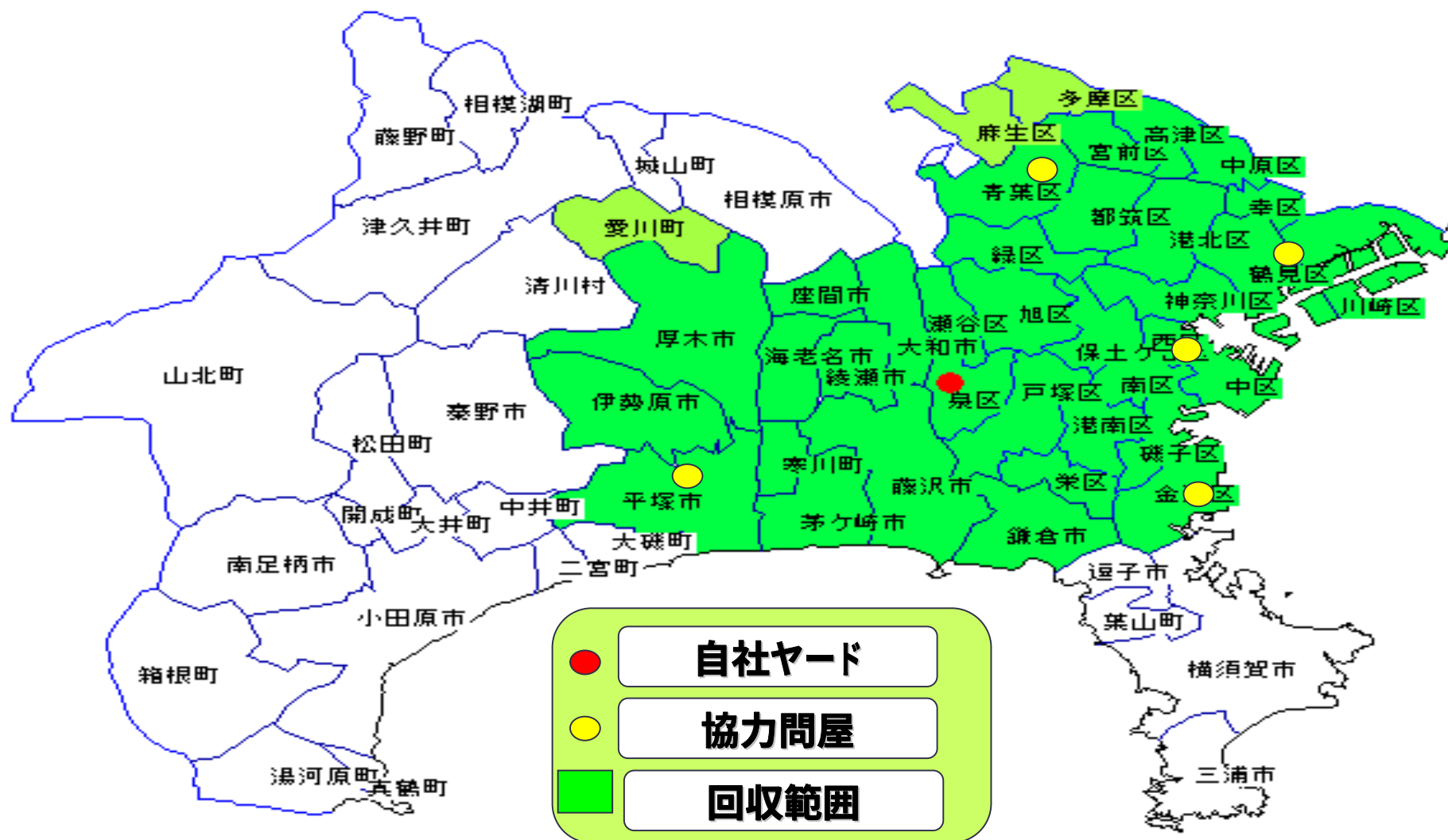
②軽油の使用量を削減する

17年度の目標

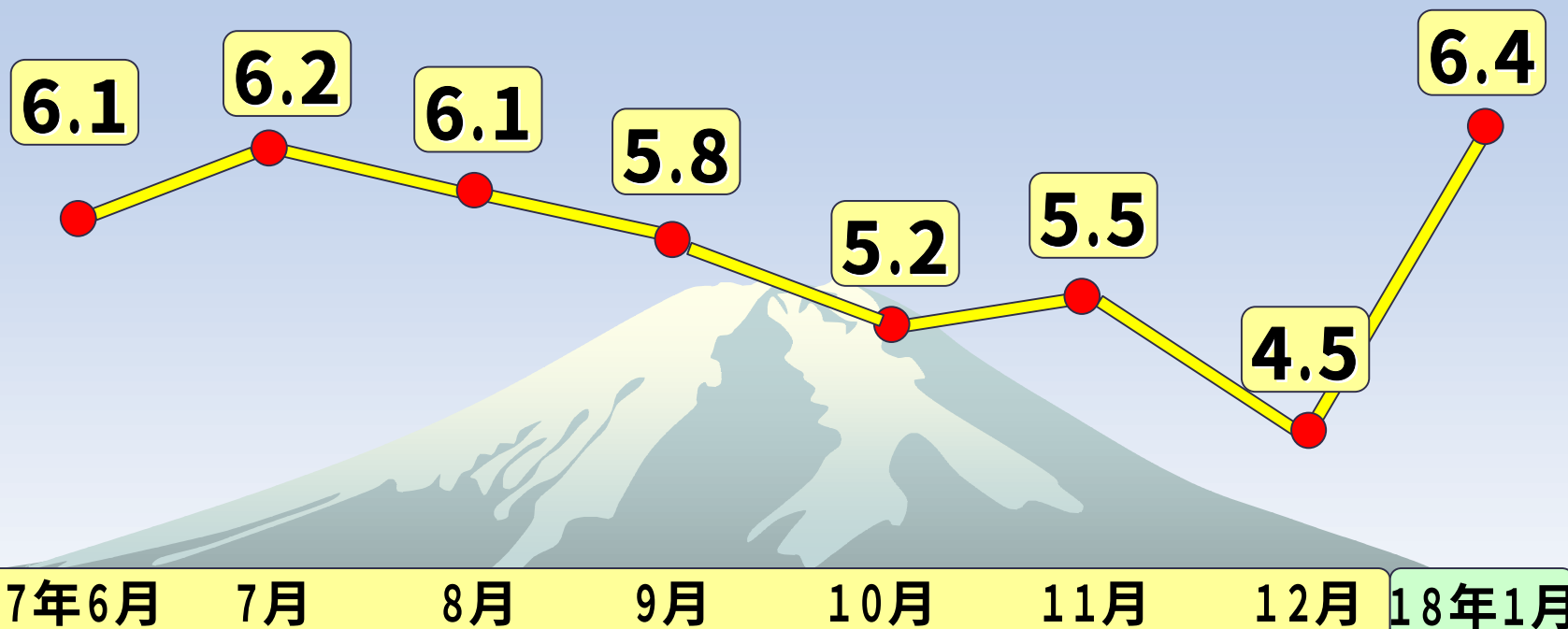
「1トン当りの使用量を前年比2%削減」

- 車両の増車と協力問屋への搬入
- 回収ルートや使用車両の見直し
- 数値目標や現状のデータ揭示
- ミーティングでの教育

回収範囲と搬入先



1トン当りの軽油使用量の推移



16年度平均

5.9 ℓ

目標平均値

5.7 ℓ

18年1月現在

5.7 ℓ

③ 分別説明会や見学会を増やし、環境対策への意識向上を促進させる

17年度の目標

「分別説明会の回数を前年比10%増加」

- 未実施の団体へ実施の呼びかけ
- 毎年送るチラシ内容の見直し
- 6月の見学会の内容の見直し
- 地域の環境イベントへの参加や協力

見学会での選別体験



地域の環境イベントへの協力



説明会実施状況

17年度実施予定

目標値

16年度

73団体中
32団体

73団体中
35団体
※16年度比
10%増

31%
増

73団体中
42団体

※17年1月現在
22団体

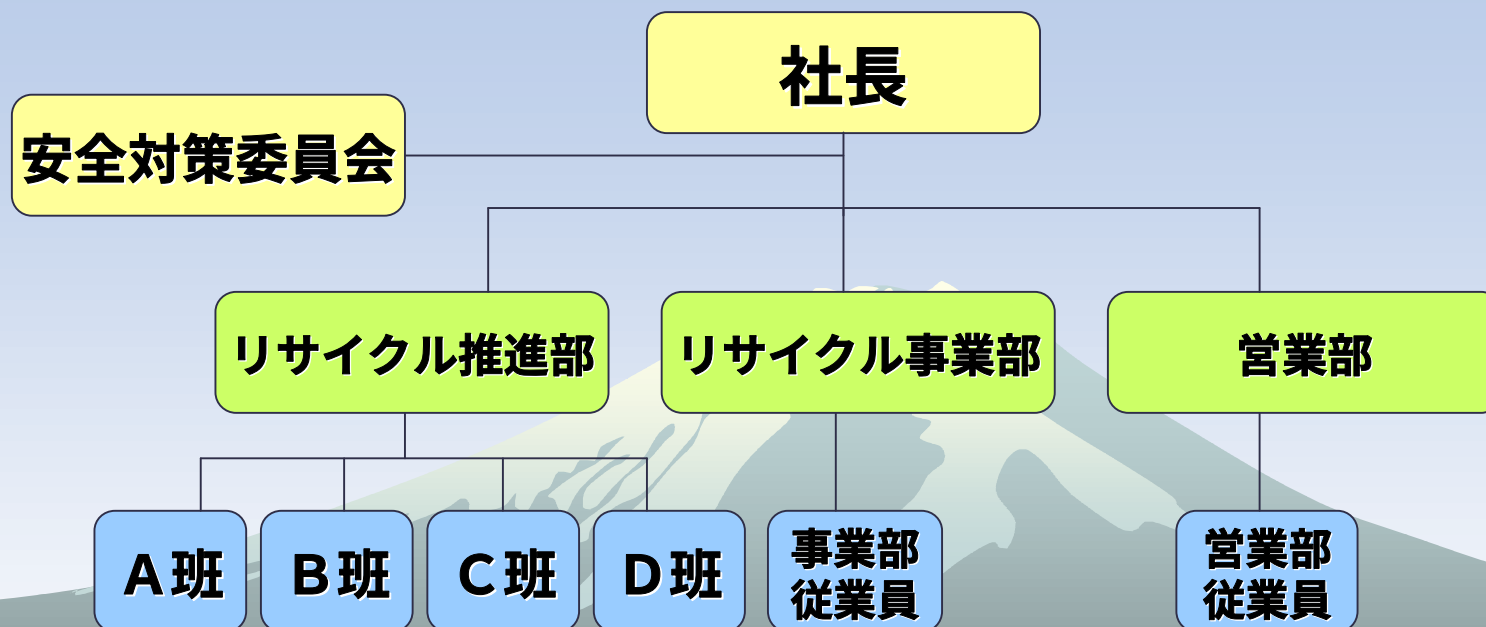
④労災無事故500日運動の達成と継続

17年度の目標

「労災無事故500日運動の継続」

- **6ヶ月無事故報奨金制度の実施**
- **安全対策委員会の活動強化**
- **車両の安全装備の充実を図る**
- **班編成や班の役割の見直し**
- **各自の自覚教育の強化**

安全対策組織図



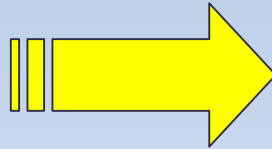
- 6ヶ月無事故報奨金制度の実施
- 安全対策委員会の活動強化
- 班編成や班の役割の見直し
- 各自の自覚教育の強化
- 車両の安全装備の充実を図る

「労災無事故500日運動」の実施状況

17年 10月	平成17年6月ISO14001取得	16年 10月	16年 1月	15年 11月	15年 9月	15年 4月	14年 6月	14年 5月	平成14年1月スタート	13年 12月	13年 11月
交差点内での人身事故により 安全日数が 196日 でストップ		車線変更時の接触事故により 安全日数が 273日 でストップ	パッカー車の機械部に 足を 巻き込まれる 事故が発生 バック時の接触事故が多発		携帯メールを見ながらの運転で 大きな人身事故 が発生	バック時の接触事故により 安全日数が 290日 でストップ	スタート後3件の事故が発生				パッカー車の機械部に 手を 巻き込まれる 事故が発生
		6ヶ月無事故報奨金制度 自己の安全運転評価実施	全車両に無線機搭載 3台にバックアイカメラ 搭載	推進部の班体制スタート	緊急安全ミーティング	全車両にデジタコ搭載 各部の作業マニュアル が完成し運用開始	無事故推進全員集会	全車にリモコン非常停止 スイッチ搭載		安全対策委員会発足	労災事故防止会議

主な事故原因と対策 ①教育面

パッカー車の機械部での作業事故



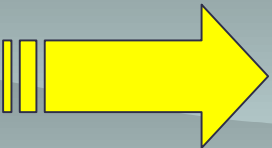
新入社員への**作業マニュアル**による講習と、全員を対象とした安全訓練の実施。

基本作業や安全作業をしていない為の事故



班の少人数制化による教育の徹底と、無線による交替での**安全啓発交信**の実施。

車線変更・バック時・速度超過・交差点内の事故



外部機関による**安全運転適正検査**の実施。
同乗による安全運転及びルート上の**危険箇所チェック**。

主な事故原因と対策 ②物理面



3ヶ所ある非常停止ボタンの他に、好きな位置に移動可能な**リモコン非常停止ボタン**を装備



バック時に後方をモニターに映し出す**バックアイカメラ**の搭載

主な事故原因と対策 ②物理面



走行中の携帯電話での通話を防止する為の**業務無線**を搭載。また、**安全啓発交信**にも活用している。



デジタルタコグラフの搭載により**速度超過・急発進・急停止**の抑制と、各自の傾向をつかみ指導にも活用している。

日常業務を基本とすることの狙い

- ① 取扱量を増やす
- ② 軽油の使用量を削減する
- ③ 分別説明会を増やし地域の環境対策への意識向上を促進させる
- ④ 労災無事故500日運動の達成と継続

ISO14001マネジメントシステム

・計画化・文書化
・チェック・記録
検証・見直し

日常業務の質を高める

基本理念

地球上に限りある資源、とりわけ次世代の生存に掛け替えのない森林資源の保全の為、古紙リサイクル活動を通じて資源循環型社会に推進、ならびに環境保全に貢献します。